

令和3年度 泥亀地域ケアプラザPDCAシート_公表用 (事業計画書、事業報告書、事業実績評価)

—総括表—

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

担当地域は商店街などのにぎわいのある地区や住宅地、大規模マンション等があり、多種多様な世代、世帯構成が共存しています。また、歴史的・文化的にも由緒ある場所です。3つの連合町内会・地区社会福祉協議会があり町内会や地区社会福祉協議会の活動も活発ですが、活動の中心的役割を担う後継者育成がひとつの課題となっています。また、閉じこもりの方、認知症の方、支援を必要とする方の早期発見も課題です。それらを解決していくには、担当エリアの各地域の連携機関や関連団体との関係構築が基本であり、地域に向きネットワークを大切にしていきます。そして、区域計画・地区別計画の推進に向け、地域支援チームの一員として活動を続け、地域ニーズを的確に把握し、地域で生まれるインフォーマルサービスや介護予防への取組等を支援・周知していきます。これからも、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、地域の特性にあわせた地域福祉活動を行います。

今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
■	<input type="checkbox"/>	高齢化や店舗の減少などにより、地域では以前から買い物が不便との声がありました。昨年度、地域にあるショッピングセンターから移動販売について相談があったため双方をつなぎ実施に向けて支援していきます。
■	<input type="checkbox"/>	小学生対象の子ども工作教室(夏休み)や、子育て中の母親や働く世代に向けたヨガ教室(土曜日)など、ケアプラザに馴染みのない方が参加しやすい事業を実施します。
■	<input type="checkbox"/>	地域のキャラバンメイト同士の交流や情報交換ができるような機会を設けます。
<input type="checkbox"/>	■	地域課題を話し合う場としての『つながりの輪 この指と～まれ』にて地域の意見としてあがった見守りホルダーの取り組みを所内5職種と地域と協働でより多くの地域に広げていきます。
<input type="checkbox"/>	■	『体験！男性アレコレ講座』から発足した講座開催のグループが、コロナ禍においても自主的に興味のある活動に取り組み、学んでいけるよう支援していきます。
<input type="checkbox"/>	■	地域住民への出前講座や認知症サポーター養成講座を多世代に向けて開催していきます。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

高齢者などが買い物に不便との声があった地域と、近隣のストアをつなぎ、移動販売を開始することができました。販売場所も2か所から3か所に増やすことができました。今後もより地域の方が住みやすい街づくりを支援したいと思えます。コロナ禍により、人数の制限や開催の判断に躊躇することもありましたが、ママさん向けの事業ではニーズがあることもわかり、今後たくさんの方々に利用していただける事業を企画したいと思います。認知症キャラバンメイトさんの親睦会や情報共有の機会を作ることができました。〈見守りホルダー〉として中部から進めたぼたんちゃんホルダーは町単位で南部地区にも広がりを見せています。〈男性アレコレ講座〉で学んだ参加者の皆さんが、他のつどいに出向いて説明などを行なうなど、積極的に活動していますので、今後も地域の皆様の要望を受けとめ、協力して事業を展開できるようにします。

区からのコメント

移動販売の取組では、地域と事業者の橋渡しとして、立ち上げから事業継続に至るまで、重要な役割を担っていただいています。課題や展望について協議体を活用した意識・課題共有をはかっていただいています。ぼたんちゃんホルダーの広がりも含め、地域のニーズに応える形で事業が展開されています。コロナ禍で認知症の啓発活動が思うようにできない中、キャラバンメイトさんの親睦会や情報共有を丁寧に行っていたいただき、今後の啓発活動につなげていただきました。土曜日の体操教室は、多世代が交流できる場にもなっており、今後の事業展開が期待できます。また、男性アレコレ講座では、複合施設の強みを活かしたプログラムが実施されています。引き続き、地域のニーズに寄り添った個別支援、地域支援をお願いいたします。